

**令和5年度文京区アカデミー推進協議会  
第1回分科会(文化芸術分野)概要記録**

日 時	令和5年8月8日(火) 18:30~20:30
会 場	文京シビックセンター17階 1701会議室
出 席 委 員	座長 垣内 恵美子 高澤 芳郎、牧野 恒良、東田 英輔、石田 廣行
欠 席 委 員	—
事 務 局	高橋アカデミー推進部長、矢島アカデミー推進部アカデミー推進課長、 石川アカデミー文京所長(シビックホール館長兼務)、眞野アカデミー推進課 アカデミー推進係長、浅野アカデミー推進課文化資源担当室長(ふるさと歴 史館長)、保科アカデミー推進課文化事業係主任
資 料	次第、令和5年度第1回アカデミー推進協議会(以下「協議会」という。)資料第2-1 号、資料第2-2号
(議事) 1 議題  ◎委員意見 ◆事務局説明	<p>1. 令和4年度の事業実施状況の点検・評価について</p> <p>① <u>分野別基本方針</u> だれもが、いつでも、どこでも文化芸術を鑑賞できる環境づくり <b>【みる(鑑賞・観覧等)】</b></p> <p>協議会資料第2-1号に基づき、同事業を通じた達成状況について説明。</p> <p>◎区立の小・中学校で出前コンサートを1コマ45分で実施しているが、短く感じているため、2コマ等に時間を延ばして実施できるとよい。また、「文化・芸術に親しむ発表会・大会等の実施」の指標である事業参加者数実績について、年齢別のデータはあるか。体感として、高齢者の参加が多いように感じるので、若者向けの情報発信を積極的に行うとよいのではないか。</p> <p>◆出前コンサートについて、2コマで実施がよいと思うが、コマ数は学校との調整が必要なので、今後検討していく。事業参加者の年齢については、シビックホール来場者も含め、若干高齢者が多いと感じる。若年層の来場者増に努めるとともに、若い頃から本物の音楽に触れる機会を提供することで、将来の鑑賞機会へ繋げたい。</p> <p>◆年齢別データの補足として、資料第2-1号51ページに区文化事業への若年層の参加状況を掲載している。そのほかの事業では、性質に応じて可能なものは年齢別データをとり、参加促進を図っている。</p> <p>◎能楽鑑賞会等の鑑賞人数は戻りつつあるため、コロナ禍で開始した夜能動画配信事業は、コンテンツを増やすペースが落ちているところもあるが、ニーズを踏まえ、今後も力を入れていきたい。</p> <p>◎KPI法での評価は、分母の取り方や統計の取り方、目標値のハードル等によって</p>

評価が変わってくるため、難しい部分もあると思う。  
ただ、文化芸術に関心のある方は何らかの事業に参加していると思うので、そのコンテンツをより充実させ、或いはよりよいものに更新していくことが必要であり、あわせて若年層への発信方法の工夫により活発な活動を促していくことも大切ではないか。  
また、区民プロデュース講座を手伝ったことがあるが、自前の講座をとおして、裾野を広げる活動に感銘を受けた。

◎日頃より区報や文京アカデミーのLINEを活用し事業をチェックしているが、情報発信のコンテンツを区民がどこまで把握しているかが重要だと思う。東京都のLINEでは個別の事業を発信しているが、文京アカデミーではホームページにアクセスしなければ事業の詳細が分からず手間がかかるので、なかなか広まりづらいように感じた。  
また、「小・中学生のための出前コンサート」について、小・中学校各2校とのことだが、2校が多いかが判らなかつた。

◎出前コンサートについて、毎年2校では一周するのに10年かかる。生徒の在籍年数は6年で鑑賞できない生徒もいるため、在籍中に1度は鑑賞できるペースで実施できることが理想と考える。

◆広報については、プッシュ型がよいと考えている。一方で、通知が多すぎても見なくなってしまう可能性があるため、SNSを活用した最善の方法を模索しながら広報活動を行っていきたい。

区立の学校数については、小学校20校、中学校10校である。出前コンサートは、1年ですべての学校をまわるとよいが、なかなか難しい事情もあり、ご理解願いたい。

◆小・中学生への鑑賞機会を提供する事業としては、別に大ホールへ来場して鑑賞する機会も設けているが、開催のペースは、提携団体のスケジュール等もあるので、参考にさせていただく。

◎幼少期に生の音楽を聴くことで、音楽への理解が進むことが分かっている。所得の影響を受けるため、実際に来るかは別として機会の提供は重要なので、アウトリーチ事業には力をいれてほしい。

広報活動においては、興味関心が近い仲間との繋がりが非常に大きいので、行政が発信した情報を誰かに広げてもらい、拡散型の広報を考えるとよいのではないか。

KPI法での評価は、予算や人件費を含めた管理運営費を考慮する必要があるため、お金の提示がない中での評価は難しい。また、目標値の設定について、コロナ禍前2年間の平均値の6割とあるが、設定基準を伺いたい。鑑賞率等について、全国調査では、令和4年度はコロナ禍からの戻りが8～9割とのデータがある。更に、家計調査でも、どの程度お金を使うかについて、コロナ禍から8～9割は戻ってきているので、そうしたデータを踏まえると目標設定が低いように感じる。

◆目標値設定のエビデンスがあるわけではないが、市民文化芸術団体の役員等のモチベーション低下やそもそも団体の存続が厳しいという状況もあるので、高い目標値の設定が難しかった。今年度は制約が無く実施できる状況になったが、高齢者の多い団体など、まだ全面的に活動再開となっていないところも多い。ただ、区としてもこのままで良いとは思っておらず、若年層も含めてしっかり事業を推進していきたい。

② 分野別基本方針 だれもが文化芸術活動を楽しむことができる機会の創出【する(活動・参加等)】

協議会資料第2-1号に基づき、同事業を通じた達成状況について説明。

◎能楽堂を活用したイベントや記念式典等を今後もやっていけるとよい。

◆能楽堂で金沢市との協定締結式を行う等、様々な連携をしている。今後も能楽堂を地域資源として活用し、文化振興に努めたい。

◎日頃より興味を持って情報収集しているつもりだが、「かるたの街文京を発信！」を初めて聞いた。情報発信の工夫やコンテンツを絞り中身を濃くするという考え方もあると思う。

◆区としても選択と集中は大事な視点だと考える。一方で、チャレンジ精神も忘れずに事業を推進していきたい。かるたについては、オリンピックも見据えた比較的新しい施策。2020年に行おうとしたインターナショナルかるたフェスティバルは中止となったが、その後様々な事業を実施している。今後も、ちはやふる等、訴求力のあるコンテンツも活用しながら、力をいれて取り組みたい。

◎かるたの事業について、バスやパンフレットで目にする機会はあったが、取組までは知らなかった。「かるたの街文京を発信！」には指標となる数値がないが、設定できないのか教えていただきたい。

鷗外に関する取組は、実績の数値が上がっており、一般の方も広く認識しやすいと思った。

舞台芸術創造事業のテーマはどのように選定しているのか。目標と実績だけをみるとハードルが高いテーマのようにも感じられる。

◆かるた事業の指標については、様々な新規事業を行っている中で、数値の設定が難しい状況もあり、文章で目標を設定している。

◆舞台芸術創造事業のテーマ選定について、ホールの性質やキャパシティに見合うテーマを考え、小ホールは開館当初より演劇を選定している。

大ホールは広いオーケストラピットをもったホールという特性に適した事業をと考え、オペラを選定した。

◎市民団体等の活動支援は非常に重要であるが、社会教育関係団体の施設利用料金の減免とは免除か減額のどちらか。またKPI法では、支援の結果登録団体が増えたか等に触れる必要がある気もする。

「かるたの街文京を発信！」という新しい資源を掘り起こす事業は素晴らしいと思うが、目標として、「競技かるたが区の文化資源として内外に認知されること」とあるため、本来であれば認知度を調べるべきではないか。

記念日イベントについては、区民観覧無料を実施したことで集客が2倍以上になったと思うが、今後も続けていくのか。

舞台芸術創造事業(大ホール)は令和2年度の参加者による実施とのことで、実施が難しかったのか。また、舞台芸術創造事業(小ホール)について、参加者が7人と少ないが大丈夫なのか。

◆社会教育関係団体に登録すると、文化施設は5割、スポーツ施設は3割の減額となる。

かるたの認知度については、毎年調査を行いたいが、予算計上できなかった。計画策定の際の調査で認知度を把握していきたい。

鷗外については、昨年度非常に大きな反響があった。今年度は子どもたちの来やすい夏休み時期に無料観覧日を設けており、今後も続けていきたい。

◆舞台芸術創造事業(大ホール)は令和2年度の参加者による実施であったため、離脱者がいたが、今年度は先日開講式を行い、目標値に届く人数の参加があった。また、小ホールの演劇については、演劇人口自体が多くないこともあり、従前は20名程度の参加であったのが、近年は10名前後で推移している。また、当初は劇団主宰の指導のもと公演を行っていたが、今は戯曲を創って公演を行っているため、ハードルが上がっているのかもしれない。

### ③ 分野別基本方針 文化芸術を支える人材の育成支援の充実【ささえる(普及・継承・指導等)】

協議会資料第2-1号に基づき、同事業を通じた達成状況について説明。

◎当団体も人材育成に重きを置いているが、なかなか難しい。子どもたちの興味関心も様々な中で、学校公演や親子向けコンサート、楽器演奏指導等の事業を通じて一人でも多くの演奏家や演奏支援に目覚める人材を育成できればと考えている。

◆幼少期から音楽に触れることで音楽が好きな人を増やしていくことは重要と考えているので、意欲をもって取り組んでいる。

◎能プロジェクトでは、子どもたちに興味を持ってもらうための鑑賞と体験の機会を提供している。会場の都合上、募集人数の制限はあるが、鑑賞時間を短めに設定し、4

つの体験コーナーを準備するなど、子どもたちが退屈せずに楽しめる事業となるよう準備している。

◎一般論として、本来コスト効率も踏まえて評価する必要があると思う。具体論としては、技術の継承という意味では、20歳未満の若年層へのアプローチが重要であると思うが、財務面等も含めた普及させるという視点で考えると40代より上の生活が落ち着いた年代が関わっていくことも考えられるので、その年代へのアプローチも必要になってくるのではないかな。

◎子ども俳句大会に関連して、俳句を学ぶ、作る等のイベントを設けるとさらに参加者が増えるのではないかな。また、指標が応募人数ではなく句数だが、1人で複数句を応募できるのであれば、応募人数を指標にしてもよいのではないかな。  
楽器演奏指導の指標では、満足度ではなく実施回数が適しているのではないかな。  
文京ふるさと歴史館収蔵品展はどのように人材育成へつながるのかな。

◆子ども俳句大会について、1人で複数の句を応募することも可能なため、参加者を指標にするのもよいが、普及具合をみるには句数の把握がよいと考えた。  
楽器演奏指導は、吹奏楽部員を対象としており、満足度はかなり高くなることが想定される。実施にあたっては、先生や生徒の希望を基にコーディネートする等、内容が濃い事業なので、まずはしっかり回数を行うことを目標として指標を設定している。

◆ふるさと歴史館収蔵品展については、他の目標にも寄与している事業であるが、ふるさと歴史館自体が区の歴史や文化資源の普及を目的とする施設であり、来館や友の会実施のイベントへの参加等、様々な機会を通じて人材育成につながると考えている。

◎親子向けコンサートは素晴らしい事業だと思う。アンケートで高い評価を得たと記載する場合は、能プロジェクト等のように具体的なアンケート結果を示したほうがよいのではないかな。

ふるさと歴史館について、社会教育施設だから人材育成につながるということであれば、1年間の来場者数が1つの指標になるのではないかな。また、人材育成は費用回収で難しい面もあるが、人への投資を含め今後もしっかり行っていただきたい。

◆ふるさと歴史館の年間入館者数については、総合戦略という上位計画でも数値を記載していることもあるが、大事な指摘と受け止める。

#### ④ 分野別基本方針 地域の資源を活かしたまちづくりの推進

協議会資料第2-1号に基づき、同事業を通じた達成状況について説明。

◎野球殿堂博物館や宇宙ミュージアムTeNQで演奏する機会があったが、他分野と

の連携は音楽のインスピレーションがかきたてられる経験であり、利用者にとっても興味深いと思うので、ふるさと歴史館等ほかの施設でも積極的に演奏したい。

◆区の文化施設での演奏は、音楽鑑賞機会の提供とあわせて施設の広報にもなり、非常に意味があると思うので、ミュージズネット加盟施設に留まらず様々な場所で行っていききたい。

◎区の文化事業は非常に数も多く、きめ細かい印象がある。当団体も、様々な場所で公演できればという思いは一緒なので、能の特性にあわせて美術館等の静かな施設で行ってみたい。

◎区には、文化や歴史資源が豊富にあるので活用できるとよい。これらの資源をどう有機的につなげていくか考えがあれば伺いたい。

また、観光分野になるかもしれないが、カイザースラウテルン市やバイオウル区等の友好都市や姉妹都市との積極的な連携についての考えも伺いたい。また、ふるさと歴史館の友の会の事業とはなにか。

◆観光、交流、スポーツも含めて1つの計画になっているのは大きな特徴であり、とくに文化と観光を融合させていくことは重要と認識している。

ただ、区には大きな観光地が少なく、最近は一貫性のあるマップ作成やまちあるき企画等、小さな単位での観光振興を進めている。

また、観光と交流もしっかり連携させていく必要があると考えている。カイザースラウテルン市等の海外友好・姉妹都市については、コロナで関係が止まっている状況があったが、様々な地と連携の芽が出ているところでもあるので、今後も国際的な文化交流を進めていきたい。

友の会は、平成3年のふるさと歴史館開館時から存在する協力組織であり、文京まち案内や館内のボランティアガイド等を行っている。自主的な活動として調査も行っており、今後どのように成果を還元していくか等の話もでている。引き続きしっかりと活動を支援していく。

◎教育機関が文化資源になるかは分からないが、東京大学の生物調査や拓殖大学の夏祭り等に参加したことがあり、教育機関の事業に気軽に参加できることは区民として非常にありがたいので、今後も連携が広がっていくとよい。

◆大学連携については学習分野で多く取り上げているが、当然文化資源としても捉えている。大学とはスポーツや交流をはじめとした様々な連携を行っており、今後もしっかり広げていきたい。

◎これまでの議論をまとめると、誰でも鑑賞でき、楽しめる多様な事業を展開している点が評価できる。一方で、人材育成、情報発信及び文化資源をいかに連携させてい

	<p>くかについては、課題が残っている。文化資源、文化拠点をいかに連携させ、より効果的、効率的に区の文化振興につなげていくのかが大きなポイントである。</p> <p>◎友の会の組織では、会費を徴収し、早期に安価でチケットをとれる等の特典があるのが一般的であり、先駆的なミュージアムでは自主的な活動を行っていることもあるが、歴史館についても同じような状況と理解してよいか。</p> <p>また、友の会の会員が増えたと記載する場合、一般的には数値を示す必要がある。なお、文化財についての掲載が少ないが、東京大学の赤門や安田講堂等の文化財についても歴史館が集約するのか。</p> <p>◆友の会は自主的な組織で、会費を徴収し、様々な会の活動に使用している。区とは協力関係にあるため、特別展の内覧会への来場、区主催事業への参加などのインセンティブはある。友の会会員の人数については、目標として数値を掲載していないが、特殊要因も含めて昨年度の240人から、今年度は260人に増えている。なお、文化財については教育委員会の所管となるが、元々ふるさと歴史館は教育委員会の所管施設であった経緯もあり、しっかりと連携しながら、観光や文化資源として活用していく。</p>
2 閉会	